UNIVERSITY OF CAMBRIDGE

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part IB
Japanese Studies

Friday 28 May 2010 13.30 – 16.30

J.7 LITERARY JAPANESE

*Answer **both** sections and **all** questions*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Section booklet.*

STATIONERY REQUIREMENTS
20 page Answer Book x 1
A Rough Work Pad

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed that you may do so by the Invigilator

SECTION A

1 Translate the following passage into English, adding notes where you think they are needed. The Japanese headnotes are merely for reference. Note the vocabulary items at the end [35 marks].

三　薬師寺別当の事

今は昔、薬師寺[四]の別当[五]僧都といふ人ありけり。別当はしけれども、殊に寺の物も使はで、極楽に生れん事をなん願ひける。年老い、病して、死ぬるきざみになりて、念仏して消え入らんとす。無下に限と見ゆる程に、よろしうなりて、弟子を呼びていふやう、「見るやうに、念仏は他念なく申して死ぬれば、極楽の迎いますらんと待たるるに、極楽の迎は見えずして、火車[七]を寄す。『こはなんぞ。かくは思はず。何の罪によりて、地獄の迎は来たるぞ』といひつれば、車に付きたる鬼どものいふやう、『この寺の物を一年、五斗借りて、いまだ返さねば、その罪によりて、この迎は得たるなり』といひつれば、我いひつるは、『さばかりの罪にては、地獄に落つべきやうなし。その物を返してん』といへば、火車を寄せて待つなり。

四 南都七大寺の一。法相宗の大本山。唐招提寺とともに奈良市西の京にある二大寺の一。天武天皇の発願によりもと藤原京に完成(六九八年)、平城の遷都ののち現在地に移る。金堂の薬師三尊を本尊とし、東塔の三重塔とともに美術史上にも秀作として著名である。

五 「別当」は大寺の寺務を統轄する僧官。最上位に位する長官。↓九九ページ注一七。『今昔』には「済源僧都」と明示する。『僧綱補任抄出』上によれば、権少僧都済源は三論宗、薬師寺別当、東大寺義延弟子とあり、天徳四(九六〇)年四月五日没、七十六歳。さらに同書には済源が一生念仏を事とし、薬師寺別当のとき用いた米五石を、臨終のとき同寺に寄進した旨を追記する。

なお右の「東大寺義延」とあるのは、『元亨釈書』巻五、巻十、『本朝高僧伝』巻八などの記述により、「薬師寺延義」と改むべきものと思われる。

六 極楽浄土。↓八〇ページ注三。

七 「くわしや」ともいう。生前に悪事を行なった亡魂を、地獄に運ぶ火の燃えた車。

八 底本「むきたるぞ」。書陵・陽明・九大・蓬左本により改める。

されば とくとく一石誦経にせよ」といひければ、弟子ども手惑ひをして、いふままに誦経にしつ。その鐘の声のする折、火車帰りぬ。さてとばかりありて、「火車は帰りて、極楽の迎今なんおはする」と、手を摺りて悦びつつ終りにけり。

その坊は薬師寺の大門の北の脇にある坊なり。今にその形失せずしてあり。さばかり程の物使ひたるにだに、火車迎へに来たる。まして寺物を心のままに使ひたる諸寺の別当の、地獄の迎こそ思ひやらるれ。

一 一石(十斗)の米を読経料として寄進する。五斗借りた倍の分を代償として払うことになるが、それに納得する鬼どもに人間臭さが反映する。

二 「いひければ」の直接の主語は僧都。このあたりの文脈に非論理的な話しことばの要素が濃く感じられる。

三 正門。寺などの総門。↓一四〇ページ注六。『今昔』に「東ノ門ノ北ノ脇」。

四 底本「むかひ」。書陵・陽明本により改める。

✠本話は『日本往生極楽記』『今昔物語集』巻十五第四話に出る。前者の記述は簡略であり、鬼との対話や火の車のことはない。とにかく返済すればすむという考えや、その倍の一石を寄進するというあたり、地獄の沙汰もなんとやらで欲得ずくの面もうかがえておもしろい。この説話の焦点は結語の示すように、寺物を私用すれば地獄に落ち、苦報を受けるというところにあり、この通念は巻九第七話や、諸種の往生伝類などにも散見する。

別当僧都	Abbot and Assistant High Priest
無下に	absolutely
鬼ども	demons
五斗	five *to* = 90 litres (of rice)
一石誦経	a sutra reading costing 180 litres (of rice)

'Yakushiji no bettō no koto', *Uji sh i monogatari* (NKBZ, vol. 28), pp. 175–76.

(TURN OVER

SECTION B

Candidates should answer all the following questions:

2 Provide a gloss for each of these poems (and their headnotes where applicable) [25 marks].

春たちける日よめる　紀貫之

2 袖ひちてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ

亭子院の御屏風の絵に、河わたらむとする人の、もみぢの散る木のもとに、馬をひかへて立てるをよませ給ひければ、つかうまつりける

305 立ちとまり見てを渡らむもみぢばは雨と降るとも水はまさらじ

文集嘉陵春夜詩「不レ明不レ暗朧々月」といふ事をよみ侍りける　大江千里

55 てりもせず曇りもはてぬ春の夜の朧月夜にしく物ぞなき（有・定・隆）

皇太后宮大夫俊成女

245 橘のにほふあたりのうたゝねは夢も昔の袖のかぞする

和歌所の開闔になりて、はじめてまゐりし日、奏し侍りし　源家長

741 もしほ草かく共つきじ君が代の數によみおくわかのうらなみ（有）

Kokinsh , poems 2, 305; *Shinkokinsh* , poems 55, 245, 741.

3 Translate the following passage into English, adding notes where you think they are needed. The Japanese footnotes are merely for reference. [25 marks].

ヲホカタ、コノ所ニ住ミハジメシ時ハ、アカラサマト思ヒシカドモ、今スデニ、五年ヲ経タリ。仮ノ菴モヤヽ故郷トナリテ、簷ニ朽葉フカク、土居ニ苔ムセリ。自ヅカラ事ノタヨリニ都ヲ聞ケバ、コノ山ニ籠リ居テノチ、ヤムゴトナキ人ノカクレ給ヘルモ、アマタ聞ゴユ。マシテ、ソノ数ナラヌタグヒ、尽クシテコレヲ知ルベカラズ。タビ〳〵炎上ニ滅ビタル家、又イクソバクゾ。タヾ、仮ノ菴ノミ長閑ケクシテ、恐レナシ。ホド狭シトイヘドモ、夜臥ス床アリ、昼居ル座アリ。一身ヲヤドスニ不足ナシ。カムナハ、小サキ貝ヲコノム。コレ事知レルニヨリテナリ。雎ハ、荒磯ニ居ル。スナハチ人ヲ

一 日野山の草庵。
二 ほんのしばらくと軽い気持であったが。「暫シバラク・カリソメ・アカラサマ」(名義抄)。
三 方丈記執筆の年から逆算すれば、五年前は承元元年(一二〇七)、長明五十三歳。
四 次第に住み慣れた故郷となって。「やや。微也、やうやう也」(奥義抄)。「ふる里とは、住みうかれたる里也。又、あからさまにたち離れても、本の家をも云ふ也。又、住みながら年久しくなりて破れたる家をも詠めり」(顕注密勘)。「故郷(ふるさと)に品々あり。古き都を故郷と云ふ。又、今住む里の旧(ふる)りたるをも云ふ。又、旅に出し我方を故郷とも云ふ」(連珠合璧集)。底本以外の本文はすべて「ふるや(古屋)」となっているが、「住みながら年久しくなりて破れたる家」「今住む里の旧りたる」の意で「フルサト」と書いた所に注目しなければならない。感慨の度合が違う。
五 たまたま、ふとした機会に、都の様子について人の語るのを耳にしたところでは。「事ノタヨリニ人ノ語ルヲ聞ケバ」(発心集五)。
六 日野に籠ってから方丈記執筆まで約五年間に、九条兼実(承元元年四月)・頌子内親王(同二年九月)・皇太后忻子(同三年八月)・坊門女院範子(同四年四月)・八条女院暋子(建暦元年六月)・春華門院昇子(同年十一月)その他、多くの貴人が世を去った。
七 全部洩れなく知ることはできない。漢文訓読調。
八 諸本「度〻の炎上」。
九 ↓五頁注二四
一〇 ヤドカリ。巻貝の殻に住む節足動物。「かみな」の転。「寄居 カミナ」(名義抄)。「寄居之虫如レ螺而有レ脚形似二蜘蛛一。本無レ殻。入二空螺殻中一載以行。触レ之縮レ足如レ螺閉レ戸也。火炙レ之乃出走。始知二其寄居一也」(酉陽雑俎・続集八)。「寄居」の字は仮住まいの意。池亭記にも「予、本居処無シ、上東門ノ人家ニ寄居ス」とある。
一一 事の道理を知っているからである。底本以外の諸

Question continues....

(TURN OVER

恐ルヽガ故ナリ。ワレ、マタ、カクノゴトシ。事ヲ知リ、世ヲ知レレバ、欲ハズ、趨ラズ。タヾ、シヅカナルヲ望トシ、ウレヘ無キヲ楽シミトス。

惣テ、世ノ人ノ栖ヲツクル習ヒ、必ズシモ事ノタメニセズ。或ハ妻子・眷属ノ為ニツクリ、或ハ親昵・朋友ノ為ニツクル。或ハ主君・師匠、及ビ財宝・牛馬ノ為ニサヘコレヲツクル。ワレ、今、身ノ為ニムスベリ。人ノ為ニツクラズ。故如何トナレバ、今ノ世ノナラヒ、此ノ身ノアリサマ、伴ナフベキ人モナク、頼ムベキ奴モナシ。縦広クツクレリトモ、誰ヲ宿シ、誰ヲカ居ヘン。

本、「事」を「身」に作る。
三 海浜に棲み、魚類を主食とする猛禽。「筑紫へ下りけるに、たかとみといふ所にて、みさごの魚取りけるを見てよめる。夕まぐれ鷹と見つれば荒磯の波間を分くるみさごなりけり」(散木奇歌集・旅宿)。この前後、池亭記の「蝸ハ其舎ヲ安ンジ、虱ハ其縫ヲ楽シム。…」参照。
一三 事の道理を知り、世の現実を知っているので。この「事」も、諸本「身」。
一四 世俗の名利を求めず、名聞のために奔走しない。「ワシル」は「走る」意。漢文訓読系の語。「世務労レ心 非二富貴一、人生実事是歓娯 白」(千載佳句・閑適)。
一五 「シヅカナルヲ望トシ、ウレヘ無キヲ楽シミトス」という、大切な事のためにするのではない。底本の「事」、これも諸本「身」。
一六 親近者や友人。「親昵 シンヂツ」(色葉字類抄)。「朋友 ボウイウ〈同心・知音・断金・連璧〉」(同上)。
一七 自分のために小庵を作った。
一八 「イカントナレバ、即ち、ナゼニトユウニ。このことの意味は…である」(日葡辞書)。「ユエヲイカントナレバ」(日本大文典)。漢文訓読語。
一九 当世の常態。
二〇 伴侶となるべき妻もなく、(私を)主人と頼むべき従者もいない。
二一 底本に「望」、必ず。底本「と」川記号。

KAMO NO CHŌMEI, *Hōjōki* (SNKBT), vol. 30, pp. 24–25.

4 Translate the following passage into English adding notes where you think they are needed [15 marks]

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海濱にさすらへ、去年の秋、江上の破屋に蜘の古巣をはらひて、やゝ年も暮、春立る霞の空に白川の関こえんと、そゞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて取もの手につかず、もゝ引の破をつゞり笠の緒付かえて、三里に灸すゆるより、松嶋の月先心にかゝりて、住る方は人に譲り杉風が別墅に移るに、

草の戸も住替る代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸置。

'Oku no hosomichi', *Bashō bunsh* (NKBT, vol. 46), p. 70.

END OF PAPER